

2021年9月12日(日)13:30~15:30、名古屋市昭和区の愛知県診療放射線技師会研修室より、ZOOM ミーティングを利用したライブ配信スタイルで「読影補助、うちではこうしています」と題して、5人の演者から各施設の取り組みを報告いただきました。

小牧市民病院からは、読影医不在時の緊急所見に対応できる体制を整えるために読影補助のデータ収集・分析を担当する委員会が発足していること、月2回のカンファレンスを開催し症例検討や撮影方法の見直しを行っていること、技師による所見入力に向けた取り組みを紹介いただきました。時間的にカンファレンス参加が難しい技師のためにデータを残すことで後日参照できるよう工夫もされているそうです。

成田記念病院からは、撮影技師がコメントを記載する「UGI 読影依頼票」の紹介の他、定期的に行われる勉強会や、用いられている撮影法のテキスト類の紹介がありました。コメント記載をすることで時間がかかってしまう反面、撮影を丁寧に行う傾向が出てくるとのお話もありました。

岡崎市民病院では、エコー検査画像と技師所見を合わせて提示することを通常とされており、その際に使用される「腹部超音波検査報告書」や、検査中の画像を別室で共有できるシステムの紹介、医師とのコミュニケーションの様子をお話いただきました。

安城更生病院では医師側からの要望で乳腺画像の一次読影が2015年11月より行われており、それらの電子カルテ上での運用の様子や、「100例チャレンジ」と名付けられた読影力向上の取り組みが紹介されました。

江南厚生病院は、乳腺検査の技師実施コメントを電子カルテ上に記載していることや、月に1回のペースで行われている医師、臨床検査技師も含めたカンファレンスの様子、多職種参加型カンファレンスであることのメリットについても紹介いただきました。どちらの施設も経験の浅い技師の読影力や技術向上のためのプログラムが細かく計画されており、具体的な育成方法も詳しく報告いただきました。

今回のセミナーには、他県や非会員も含めて約180人の参加があり、リモート開催ならではの強みを改めて感じました。また、昨年のオンデマンド配信とは異なり参加者からの質問がリアルタイムで届く双方向感があることも良かった点かと思われまます。一方、通信環境の不安定さから配信中断や、動画再生で不備が起こるなどアクシデントも多く発生してしまい、御見苦しかった点につきましてお詫び申し上げます。今後はよりスムーズな運営とオンラインシステムの十分な活用ができるよう図っていきたいと思います。